国際シンポジウム

無名な書き手のエクリチュール

Colloque international : Écrire quand on est inconnu

日時：2014年12月20日（土）10:30〜18:15

21日（日）10:30〜15:15

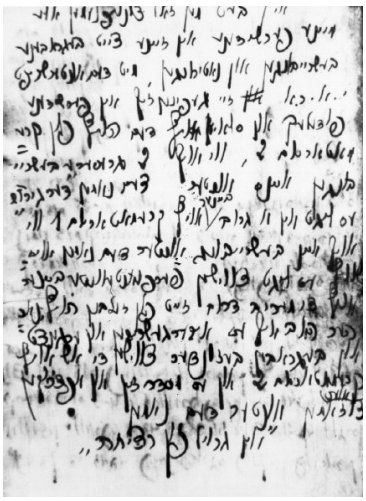
両日とも10時開場

会場：岩手大学学生センターB棟2階 GB21

主催：岩手大学人文社会科学部

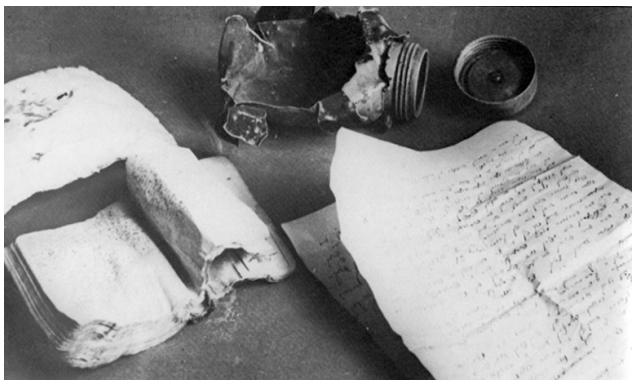
◎入場無料、参加申込不要

学生センターB棟入口



文章を書く人が、作家であるとは限らない。そして、名のある作家であっても、多くの場合、最初に書いたときは無名であった。
無名の書き手たちが、読まれる確信もなしに書き始めるという条件は、自明でありながら捉えがたいものである。読まれないかもしれないテクストを生み出す動機は、どこからやってくるのだろう。また、あるテクストが、無名の書き手による遺稿であるという理由で、時として価値と魅力を増すように思われるのは、いったいなぜなのか。
本シンポジウムでは、さまざまな無名の書き手によるエクリチュール（文筆活動）を取り上げて、人間にとって書く行為が何を意味するかを問う――

東日本大震災を詠んだ句集『龍宮』で第68回現代俳句協会賞特別賞を受賞した釜石在住の俳人、照井翠氏、ボルドー第3大学教授で研究グループ「モデルニテ」代表を務めるエリック・ブノワ（Éric BENOIT）氏、そして学内外の10人の研究者が、2日間にわたって講演と研究発表を行います。どなたでもお越しいただけます。



問合せ：岩手大学人文社会科学部フランス文学研究室（中里） makiko★iwate-u.ac.jp ★を@に変えて

国際シンポジウム　無名な書き手のエクリチュール Écrire quand on est inconnu

☆：日本語発表（20分間）　★：日仏両語発表（35分間）

---------- 12月20日（土）----------

セッション1　　10:30〜12:00　　司会：西田文信（岩手大学）

中里まき子（岩手大学）　名もなき書き手たちによる3.11の詩歌 ★

堀久美（岩手大学）　震災の記録を残す女性の活動 ☆

基調講演1　　13:15〜14:30　　照井翠（俳人、釜石高等学校）

沈黙の詩（うた）、俳句　――東日本大震災を詠む――

司会：中里まき子（岩手大学）

基調講演2　　14:45〜16:30　　エリック・ブノワ（ボルドー第3大学）

未知の奥底で書く（アウシュヴィッツに残された手記）

司会・講演和訳：中里まき子（岩手大学）

セッション2　　16:45〜18:15　　司会：川村和宏（岩手大学）

福島勲（北九州市立大学）　未来への作文 ――長田新編『原爆の子』の子供たちとその後 ★

長谷川晶子（京都産業大学）　無名への回帰 ――アンドレ・ブルトンにとって創作とは何か ★

（19:00〜21:00　発表者・司会者のための懇親会）

---------- 12月21日（日）----------

セッション3　　10:30〜12:00　　司会：堀口大樹（岩手大学）

梶さやか（岩手大学）　自らについて書くということ

――19世紀旧ポーランド＝リトアニア領における貴族の手稿 ☆

秋田淳子（岩手大学）　アメリカの主婦が書いたこと ☆

梁仁實（岩手大学）　植民地期朝鮮映画のなかのダイグロシア ――映画『授業料』を中心に ☆

セッション4　　13:15〜15:15　　司会：山本昭彦（岩手大学）

畠山達（日本大学）　どのようにして詩人になるか：ボードレールの場合 ☆

千川哲生（立命館大学）　模倣から創作へ ――修辞学教師リシュスルスによる剽窃の方法 ★

黒岩卓（東北大学）　無名性と中世末の劇テクスト伝承

――アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』の例 ★

【照井翠】

俳人。昭和37年岩手県花巻市生まれ。平成2年より加藤楸邨に師事。平成14年、第20回現代俳句新人賞受賞。平成25年、第5句集『龍宮』により第12回俳句四季大賞、第68回現代俳句協会賞特別賞受賞。俳誌「寒雷」「草笛」同人。現代俳句協会会員。日本文藝家協会会員。句集に『翡翠楼』『雪浄土』など。高校教師。釜石市在住。

【エリック・ブノワ Éric BENOIT】

ボルドー第3大学教授。同大学にて文学研究グループ「モデルニテ」の代表を務める。19・20世紀のフランス文学を専門とし、特にステファン・マラルメの詩について多数の著書及び論文を発表。著書に、『やさしい言葉で読む聖書』（Ellipses，2009年）、『響き渡る虚無：マラルメ、あるいは逆説の横断』（Droz，2007年）、『意味の危機から意味の探求へ：マラルメ・ベルナノス・ジャベス』（Cerf，2001年）等がある。